

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『万博と鉄道 — 1970年大阪万博から2025年大阪・関西万博まで』

松本典久著
交通新聞社発行
2025年6月／1,100円（税込）
所蔵箇所：信濃町

万博は、会期中の大量輸送のみならずその後の地域をも支える鉄道を社会に残してきた。本書は、そんな万博と鉄道の密接な関係を辿る。

1970年の大阪万博では、アクセス路線として北大阪急行電鉄が開業し、会場内にはモノレールや動く歩道も整備された。会期終了とともに乗り物の多くは役目を終えたが、新設された鉄道は今も地域を支える交通手段として活用されている。

時代は下り、2005年の愛・地球博。会場では自動運転や燃料電池を導入したバスが走り、アクセス路線としてリニモ（磁気浮上式鉄道）が登場した。リニモは現在も運行しており、環境共生型のまちづくりを象徴する存在となっている。

そして現在開催中の大阪・関西万博では、Osaka Metroが夢洲まで延伸し、アクセスの主軸を担っている。この路線は会期終了後も、国際的な観光・ビジネス拠点としての発展が期待される夢洲を支えるインフラとなるだろう。

大阪・関西万博も間もなく閉会を迎える。この機会に本書を手に取り、万博と鉄道が紡いできた歴史に触れてみてはどうだろうか。（原）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『グリーン車 50 年の世界
— サービス開始から 50 周年め』

交通新聞社発行
2019年4月
所蔵箇所：信濃町

本書は、1969年に国鉄で誕生したグリーン車の50周年を記念して発行されたものである。

国鉄は、赤字解消を目的として、1968（昭和43）年10月に大規模な時刻改正を行い、特急・急行の本数を大幅に増やした（よん・さん・とお）。さらに、1969年5月に等級制を廃止してモノクラス制に移行するとともに、運賃・料金制度を改正した。こうして、グリーン車が誕生することになった。それから50年、時代のニーズに応じて変化を続けてきた。現在は、電車のグリーン車が多数を占めるが、客車や気動車のグリーン車も多く存在した。国鉄末期からJR初期にかけてのバブル景気の時代には、豪華なグリーン車も登場した。

本書では、国鉄・JR在来線や新幹線のグリーン車だけではなく、パーラーカー、ジョイフルトレインなども含む豊富な写真が掲載されており、設備の変遷や乗客がどのように過ごしていたかなどを知ることができる。また、巻末付録として、2019年3月16日ダイヤ改正後のグリーン車席番表が掲載されており、それぞれの車内設備の違いが一目でわかるようになっている。（古森）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP（<https://www.itej.or.jp/about>）をご覧ください。

担当：古森崇史、原祥太、土方規義、田邊由佳

